

# 第二回文化遺産防災アイデアコンペティション

# 未来に引き継ぐ近代

IDEAS COMPETITION FOR STRATEGY ON DISASTER MITIGATION OF CULTURAL HERITAGE AND HISTORIC CITIES

「文化遺産防災アイデアコンペティション」では、文化遺産の防災機能を向上しながら、より良い都市環境づくりにつながるデザインやアイデアの提案を募集します。

## 作品応募の締切りについて

一次審査の審査会が、締切日の直後に実施されるため、作品の提出は宅急便で「5月21日午前中」必着となるようにしてください。  
5月20日までに届くことが確実な場合は、郵送でも構いませんが、上記の期限までに届いていない作品については、一次審査の対象に含まれない場合があります。

## コンペティションの概要

### Outline

コンペティションの概要  
Outline

課題と募集要項について  
Task And Guidelines

審査員  
Juries

参考資料  
Background Information

応募登録  
Registry

個人情報の取扱いについて  
Privacy Policy

## ■ コンペティションの主旨

我々が現在生活している都市の多くは、実はその魅力の大部分を歴史時代の神社仏閣や近代の芸術作品など過去の時代につくられた文化遺産に負っています。しかも、文化遺産を創出した地域の多くは今や大都市となり、文化遺産の数々は潜在的な災害の海に漂っています。これらの文化遺産を現代技術によって災害から守る必要がある一方、それだけで文化遺産や歴史都市の価値が守られたといえません。文化が特定の時代と社会に育まれるものである以上、守る技術と活動が、守られる文化遺産と一体となって美しい生活環境を提供し、21世紀の文化的景観として後世に引き継がれねばならないからです。



「文化遺産防災アイデアコンペティション」では、文化遺産の防災機能を向上しながら、より良い都市環境づくりにつながるデザインやアイデアの提案を募集します。提案に対しては領域横断的な議論による審査を行い、災害に強く、将来にわたって文化遺産の価値が育まれるような歴史都市のありかたを探求します。提案の切り口は、上記のテーマに主眼を置く限り、どのようなものでも構いません。本コンペティションでは、既存の概念に囚われない、自由かつ真摯なアイデアを募集し、何らかの形でケーススタディとして実施し、実際の施策に反映させることを目指しています。

## ■ 文化遺産防災とは？

立命館大学では、文部科学省による大型研究プロジェクトであるグローバルCOEにおいて『歴史都市を守る「文化遺産防災学」推進拠点』を平成20年から5ヶ年の研究計画として始めています。またこれ

過去の開催情報  
2009年 第一回文化遺産防災  
アイデアコンペティション  
昨年度の審査結果などがご覧いただけます！

立命館大学GCOE  
文化遺産防災学推進拠点  
<http://www.rits-dmuch.jp>

## 注目の新着情報

参考資料を追加しました。

「琵琶湖疏水記念館」

「レンガアーチ橋の構造解析に関する研究論文」

「琵琶湖疏水のパンフレット」

[詳細はこちら](#)

(掲載日:2010年4月19日)

スタディエリアの見学会を、4月22日(木)に開催します！

に先だち平成15年からの21世紀COE「文化遺産を核とした歴史都市の防災研究拠点」においても文化遺産防災に関わる研究を行ってきました。

これらの研究は、歴史都市に多く残されている文化遺産を、地震や洪水、火災、あるいは土砂災害などの自然災害から守ることを目的としています。たとえ千年の昔から遺されてきたものであっても、過去の50年、100年で都市の構造が変わったことで、各種の災害に対して極めて脆弱な状態になっています。このような危機的状態にある文化遺産を災害から守るための学際的な研究活動の一環として、2009年度から「文化遺産防災アイデアコンペティション」を行うこととし、今回が第2回目になります。

## ■ 主催・その他

主催：立命館大学歴史都市防災研究センター

立命館大学文部科学省G-COE文化遺産防災学推進拠点

共催：京都ライオンズクラブ

協賛：NPO法人災害から文化財を守る会、土木学会地域防災システム研究小委員会

[詳細はこちら！](#)

(掲載日：2010年3月29日)

4月中旬にスタディエリアの見学会を予定しています。詳細を後日掲載しますので、ご確認ください。

(掲載日：2010年3月15日)

昨年度の応募作品と審査のディスカッションを収録した作品集が、「建築ジャーナル」社より近日出版の予定です。

(掲載日：2010年3月15日)

🔍 ページの先頭へ



主催：立命館大学歴史都市防災研究センター

© Ritsumeikan University

## 第二回文化遺産 防災アイデア コンペティション

# 未来に引き継ぐ近代

## 課題と募集要項について

Task And Guidelines

### ■ スタディエリアと課題 ～琵琶湖疏水と蹴上地区～

本年度は、近代化遺産を中心に取り上げます。京都市蹴上の琵琶湖疏水とその周辺、インクラインや水路閣などの近代化遺産を含むエリアを中心に、「近代遺産と周辺地区の防災および観光利用計画」をテーマとした文化遺産防災のアイデアを募集します。

対象エリアには、歴史的地区にある歴史的建造物の防災と再生、防災や被災時の水源となる琵琶湖疏水など近代的社会資本の活用と景観的融合、また観光防災施設とそのプログラムの提案など、多様な提案の可能性が考えられます。おおよそ、図のピンク色で囲んだ部分が中心となります。提案はこの範囲に必ずしも限定される必要はありませんが、今回のテーマである近代化遺産に対して焦点を当てることは提案の条件とします。



○ 拡大して表示する

たとえば防災をきっかけに地域の文化的価値を強化するプログラムを備えた建築計画やアーバンデザインの提案、あるいは既存の水利を活用した災害時に役立つランドスケープ・デザイン、また平常時にも災害時にも役立つサイン計画のように観光価値の向上に貢献する防災システムなど、多様な角度からの斬新な提案を期待します。

地区についての詳しい情報は「参考資料」のページでもご覧いただけます。「参考資料」のページには随時情報が追加される場合がありますので、ぜひご参照のうえ、この地区の歴史都市としての潜在力を十分に生かした提案を構想してください。また、4月には現地見学会を予定しています。詳細はトップページの「注目の新着情報」欄に掲示しますので、奮ってご参加ください。

### ■ 応募資格

応募締切り時点で30歳以下の方

### ■ 表彰および副賞

最優秀賞(1点。副賞50万円)、次点(1点。副賞25万円)、佳作(5点。副賞5万円)、その他特別賞(数点。副賞なし)

なお、副賞は京都ライオンズクラブのご協力によります。

### ■ 審査員

- 足立裕司(神戸大学)
- 伊津野和行(立命館大学)
- 岡本晃(京ごふく「おか善」)
- 佐々木葉二(京都造形芸術大学)
- 高田光雄(京都大学)
- 土岐憲三(立命館大学)
- 橋本徳昭(関西電力)
- 室崎益輝(関西学院大学)

コンペティションの概要  
Outline

課題と募集要項について  
Task And Guidelines

審査員  
Juries

参考資料  
Background Information

応募登録  
Registry

個人情報の取扱いについて  
Privacy Policy

過去の開催情報  
2009年 第一回文化遺産防災  
アイデアコンペティション  
昨年度の審査結果などをご覧いただけます!

立命館大学GCOE  
文化遺産防災学推進拠点  
<http://www.rits-dmuch.jp>

※〇は審査員長。50音順、敬称略。

## ■ 提出先

下記の宛先に郵送で提出してください(持参不可)。

〒603-8341 京都市北区小松原北町58  
立命館大学歴史都市防災研究センター  
事務室「文化遺産防災アイデアコンペ」係

## ■ スケジュール

2010年3月中旬 課題発表  
5月21日(金) 一次審査作品応募締め切り(必着)  
6月初旬 一次審査結果発表  
7月3日(土) 二次審査および表彰(公開プレゼンテーション※)

※「歴史都市防災シンポジウム'10」内

## ■ 現地見学会

4月に現地見学会を予定しています。詳細はトップページの「注目の新着情報」欄に掲示しますので、奮ってご参加ください。

## ■ 応募方法

### 一次審査

二次審査での議論の対象にふさわしい作品(7点)を、非公開の審査で選出します。  
提案内容の充実度に加えて、作品としての完成度も求められます。

### 提出物:

#### ① A1ボード(ハレパネなど)1枚に以下をレイアウトしたもの

1. 提案のタイトル
2. 提案概要の説明文(500字程度)
3. ボードの表面右上隅に2cm×5cmの枠を設け、枠内に応募登録番号を記入すること。(応募登録番号は、②の手続きで取得してください。)
4. 提案内容をあらわすために必要な図面や模式図(必要なキャプションなどを含む)、透視図および模型写真など
5. ボードには応募登録番号以外、応募者を特定できる情報は記載しないこと。

#### ② 応募申込書

下のリンクから登録ページに進み、必要事項を記入して登録を行うこと。  
記入したメールアドレスに登録完了の確認メールが送られるので、そのメールをA4用紙に出力の上、応募申込書として提出作品と同梱すること。応募申込書のない作品は受け付けられないので注意すること。

[→応募登録ページ](#)

#### ③ CD-R 1枚に、①のPDFデータを収めたもの。

1. PDFファイルの名称は、「<登録番号>. PDF」とすること。
2. 元のデータをイラストレータなどで作成する場合、線やフォントはラスターライズしないようにし、フォントはPDFファイルに埋め込んでおくこと。
3. ラスターデータの場合、もしくはラスターデータを含む場合、その解像度は300dpi程度とすること。
4. CD-Rに、「文化遺産防災アイデアコンペ」の文字、および登録番号を記入したラベルをつけること。

**二次審査・表彰**

一次審査で選抜された作品の中から、一次審査で提出されたボードに加えパワーポイントや模型などの補足資料を用いたプレゼンテーションと、審査員による質疑や議論を通して、提案としての完成度や総合性を基準に最優秀賞および次点を選出し、特別賞と併せて表彰式を行います。

(1) 2次審査の発表には、約4分間のパワーポイントによるプレゼンテーションを行います。

(2) 模型などの立体的な補足資料について

- 平面寸法はA1以内、高さは土台を含めて60cm以内とすること。(搬出入が容易な重量とすること。)
- 立体的な補足資料はパネルとともに会場と同施設の別室に展示し、審査員は別途閲覧します。したがって発表時にそれらを指し示すことなどはできないので、パワーポイント中に写真などとして含めておくこと。

(3) 2次審査対象作品については、発表者2名までの交通費と模型などの立体的な補足資料の郵送費が支払われます。特別賞対象作品については、代表者1名分の交通費が支給されます。

## ■ 成果の出版と応募作品の取り扱いについて

本コンペの応募作品、及び審査の内容については、応募登録をもって、立命館大学による出版物や展示、その他において作者の氏名と提出時点での所属とともに、適宜使用することを応募者に許諾いただいたものとさせていただきます。なお、応募作品の返却は致しませんので、提出に先立って、各自で必要な記録を行うようにしてください。

🔍 [ページの先頭へ](#)



主催: 立命館大学大学歴史都市防災研究センター

© Ritsumeikan University

## 第二回文化遺産 防災アイデア コンペティション

# 未来に引き継ぐ近代

## 審査員

Juries

皆さんから寄せられた提案に対しては、下記のような領域横断的な審査メンバーによって多角的かつ総合的な講評と議論を行い、災害に強く、将来にわたって文化遺産の価値が育まれるような歴史都市のありかたを探究します。(以下、50音順、敬称略。)

あ  
だ  
ち  
ゆ  
う  
じ  
  
足  
立  
裕  
司

### 過去と未来を見つめる建築史家

神戸大学工学部教授・自然科学研究科教授・国際協力研究科教授。建築から都市環境にいたる近代化の過程を、社会的、文化的背景を含めて再考すると同時に、開発と表裏をなす問題としての歴史的建造物を含めた歴史的環境の保全についての研究を行う。文化遺産の保全に関する国際協力のあり方についてもUNESCO や ICOMOS の活動を踏まえながら研究。最近の活動としては兵庫県下の近代化遺産調査、個別には生野鉱山を中心とする鉱山町の調査を行い、地域に残る歴史的建造物を活かして、どのような地域の活性化施策が考えられるかを研究している。著書に『阪神・淡路大震災と歴史的建造物』(思文閣、1998)、『栄光の残像』(出版社、2000)、『関西のモダニズム建築 20 選』(淡交社、2001)など。

い  
づ  
の  
か  
ず  
ゆ  
き  
  
伊  
津  
野  
和  
行

### 都市住民の生命を守る耐震工学

立命館大学理工学部教授。人の命を守るには医学だけではないという考えから、防災工学の視点で地震から人や町、さらには文化を守るための研究を展開している。耐震工学と構造工学を基礎として、実験および数値解析による橋や高架橋の津波防災や免震補強対策、現地調査や地震応答解析による木造寺院や組積造橋梁の耐震安全性評価など、将来の地震に備えて文化遺産を未来へ遺すための実践的な研究活動を行っている。立命館大学GCOEプログラム文化遺産防災学推進拠点幹事長。1984年京都大学工学研究科修士課程土木工学専攻修了。京都大学工学部助手を経て、1993年より立命館大学助教授、2001年より現職。博士(工学)。著書に『構造力学 都市環境デザインシリーズ』(森北出版、2009)、『耐震構造設計論』(京都大学学術出版会、1997)など。

お  
か  
も  
と  
あ  
き  
ら  
  
岡  
本  
晃

### 新しい感性で守る京の伝統

今年創業200年を迎える老舗・京ごふく「おか善」社長。京都ライオンズクラブ第56代会長。昭和14年生まれ。同志社大学経済学部卒業後、株式会社おか善に入社。同62年、代表取締役社長に就任する。「日々青春」「誠」「自分に厳しく、他人には甘く」をモットーとする8代目。おか善は、寛政年間(1789～1801)、近江商人の岡本儀衛門が上京し、呉服小売業の近江屋儀衛門として創始。万寿寺通と高倉通の角に店があったことから、屋号を角善岡本に改める。昭和25年、麩屋町四条下ルに、株式会社おか善を設立。同58年、御池通に面して新社屋を構える。平成4年、ファッション関係部門として、ファブリックオカゼンを設立。毎春、祇園の“都をどり”で舞妓さんが身にまとう衣裳を手がける。全国呉服専門店協同組合会員。

コンペティションの概要  
Outline

課題と募集要項について  
Task And Guidelines

審査員  
Juries

参考資料  
Background Information

応募登録  
Registry

個人情報の取扱いについて  
Privacy Policy

過去の開催情報  
2009年 第一回文化遺産防災  
アイデアコンペティション  
昨年度の審査結果などご覧いただけます!

立命館大学GCOE  
文化遺産防災学推進拠点  
<http://www.rits-dmuch.jp>

## 佐々木葉一

### ランドスケープ・アーキテクト

京都造形芸術大学環境デザイン学科教授。日本を代表するランドスケープ アーキテクトの一人。主なランドスケープ作品に、さいたま新都心けやき広場、六本木ヒルズ、衆議院議長公邸、シンガポール理工系専門学校、などがある。1973年大阪府立大学大学院修士課程(緑地計画工学専攻)修了、88-89年ハーバード大学大学院ランドスケープアーキテクチャー学科客員研究員、89年鳳コンサルタント(株)環境デザイン研究所所長の後、鳳コンサルタント(株)環境デザイン研究所・佐々木デザイン室代表。日本造園学会賞(設計作品部門)ほか米国ASLA賞、グッドデザイン賞など受賞多数。著訳書に『佐々木葉一作品集』(マルモ出版、2004)、『庭の意味論』(鹿島出版会、1996、共訳)、『見えない庭』(鹿島出版会、1997、共訳)など。

## 高田光雄

### 建築と都市をつなぐ居住空間学

京都大学大学院工学研究科教授。専門領域は居住空間学。建築計画と都市計画の境界領域として位置付け、現場の視点に立った市民との協働によるまちづくりや、あたらしい集住のあり方について研究を進めている。実際の住まい・まちづくりプロジェクトのプロデュースやコーディネーションに関する実績多数。1977年京都大学大学院工学研究科修了。京都大学助手などを経て、現職。都市住宅学会副会長、京都府建築士会副会長、京都市住宅審議会会長など歴任。1996年日本建築学会賞、2001年日本建築士会連合会賞、2003年都市住宅学会賞など受賞。著書にNEXT21-その設計スピリッツと居住実験10年の全貌-』(エクスナレッジ、2005)、『体験!まちづくり学習』(学芸出版社、2003)、『少子高齢時代の都市住宅学』(ミネルヴァ書房、2002)など。

## 土岐憲三

### 文化遺産防災学の創始者

立命館大学教授、理事長顧問、立命館大学歴史都市防災研究センター センター長 NPO法人災害から文化財を守る会 理事長、博士(工学)。専門は地震工学と文化遺産防災学。1966年同大学院工学研究科博士課程修了。京都大学教授、東京大学客員教授、京都大学工学研究科長、工学部長、総長補佐などを経て、2002年より現職。国連上級科学顧問、世界地震工学会日本代表、土木学会副会長、日本自然災害学会会長、日本地震工学会会長、などを歴任。阪神淡路大震災前、地震は起きないといわれた関西で地震観測網をつくり冷笑されたが、その8ヵ月後に大震災が起きた体験をもつ。大震災の教訓を学ぶ研究集会「メモリアルコンファレンスインコウベ」や「地震火災から文化財を守る協議会」を創設するなど、行動派の研究者として知られる。編著多数。

## 橋本徳昭

### 「くろよんスピリッツ」で未来を拓く

関西電力株式会社 常務取締役。1948(昭和23年)年、三重県生まれ。75年3月、京都大学大学院工学研究科衛生工学専攻修工課程終了、同年4月関西電力(株)入社。関西電力の土木技術者の原点であるチャレンジ精神「くろよんスピリッツ」を受け継ぎ、28歳の時、「黒部第四ダム以来の大事業」といわれた御坊発電所建設事業(和歌山県御坊市)の人工島建設計画を経験する。国外の水力発電における技術支援にも関わり、諸外国の次世代を担う若者たちにもこの精神を語り伝えている。1992年建設部水力計画課長、2003年土木建築室土木グループチーフマネジャー(土木部長)、2006年執行役員土木建築室長、2010年より現職。

むろとぎよして  
室崎  
益輝

## 市民目線の独創的な防災工学

関西学院大学総合政策学部教授・災害復興制度研究所所長、神戸大学名誉教授。地震出火リスク研究の他、被災地復興物語調査、減災コミュニケーションなど、市民の目線にたった独自のアプローチで防災の研究と普及活動を行っている。おもな社会活動に、内閣府中央防災会議専門委員会委員、ひょうご震災記念21世紀研究機構参与、大阪市阿倍野防災センター名誉館長、海外災害援助市民センター副代表、日本災害復興学会会長。1971年京都大学大学院工学研究科博士課程修了、神戸大学工学部教授などを経て、98年神戸大学都市安全研究センター教授、2004年独立行政法人消防研究所理事長、06年総務省消防庁消防大学校消防研究センター所長、08年より現職。著書に『大震災以後』(岩波書店、1998)、『建築防火(新版)』(朝倉書店1994)、『建築防災・安全 現代建築学』(鹿島出版会、1993)など。

🔍 ページの先頭へ



主催: 立命館大学大学歴史都市防災研究センター

© Ritsumeikan University